

■ 原著

手根管症候群症例に対する horizontal extension technique の効果

金子翔拓^{1,2)} 池本吉一¹⁾ 青木光広⁴⁾
坪田貞子⁵⁾ 内山英一³⁾

医療法人社団篠路整形外科¹⁾, 札幌医科大学大学院保健医療学研究科²⁾, 同生体工学講座³⁾,
札幌第一病院整形外科⁴⁾, 北海道文教大学作業療法学科⁵⁾

要旨 横手根靭帯をストレッチする方法が手根管症候群に有用であるとされている。手根管症候群症例 17 例に対して horizontal extension technique (HET) を用い、その治療効果を検討した。結果より全 17 例中、浜田分類が改善したのは 8 手であった。またしびれ、Q-DASH、ピンチ力・握力は HET により改善を示し、HET が手根管症候群の治療に効果的であることが示唆された。

Abstract Stretching of the transverse carpal ligament is effective as a treatment for carpal tunnel syndrome (CTS). In the present study, we investigated the effects of the horizontal extension technique for 17 patients with carpal tunnel syndrome. As the results, 8 patients improved the classification of the Hamada. Furthermore, the results showed improvement of the numbness, Q-DASH score, pinch strength, grip strength, and the classification of the Hamada by the HET. It is suggested that the HET is effective as a treatment for CTS.

Key words : 手根管症候群 (carpal tunnel syndrome), 徒手療法 (manual therapy), 保存療法 (conservative treatment)

緒言

手根管症候群 (carpal tunnel syndrome ; 以下 CTS) は正中神経支配領域の知覚障害と運動障害を病態とする正中神経の絞扼神経障害である^{2,5,6)}。

CTS の治療は病期によって異なり、一般的には保存療法が選択され、ステロイド注射やスプリントは短期的効果があるとされている⁹⁾。軽快しない場合は正中神経の除圧を目

的に手術療法が選択され、手根管開放術が施行される。保存療法との治療結果の比較研究では、手術療法が保存療法よりも優れているが⁶⁾、術後に再発する例や症状が残る症例もある⁹⁾。

CTS の保存治療に徒手療法がある。近年、Shacklock により clinical neurodynamics という概念が提唱され、CTS に有効であると報告されている¹⁰⁾。Shacklock は手根管内のメカニカルインターフェースが CTS の機能

Effects of the horizontal extension technique for carpal tunnel syndrome

Shouta KANEKO, OTR, MS, Yoshikazu IKEMOTO, MD, PhD, Mitsuhiro AOKI, MD, PhD, Sadako TSUBOTA, OTR and Eiichi UCHIYAMA, MD, PhD

連絡先 : 〒002-8024 札幌市北区篠路 4 条 5 丁目 3 番 9 号 医療法人社団篠路整形外科 金子翔拓 電話 011-772-7255